

僕たちの、おにぎり屋のこと

登場人物 僕（辰郎、35歳）、父（寅一郎、73歳）

僕の名前は、辰郎です。

辰年に生まれたから、辰郎です。覚えやすい名前気に入ってます。

父は、寅一郎といいます。もちろん寅年生まれです。

父は、6年前までおにぎり屋をやってました。

父のにぎるおにぎりのファンは多く、僕もそのひとりです。

僕は、最近まで神楽坂のとある料亭で

板前の修業をしていたのですが、思うところあって店を出ました。

シンプルで美味しいものを気負わずに食べてもらいたくて、

おにぎり屋をはじめると決心しました。

一度引退した父を説得するのは、それはそれは大変でした。

父のにぎるおにぎりを、ひとりでも多くの人に食べて欲しいんだ、

という想いをぶつけて、やっと重い腰をあげてくれました。

新鮮で旨い食材を求めて旅する「移動・おにぎり屋」が、

最初に目指したのは函館。それは、

獲れたての北海道産いくらをにぎってみたいと

父がリクエストしたからです。

市場に直接行って吟味したいくらだけを、

めいっぱいこぼした「いくらこぼし」の出来には自信があります。

お客さんの反応も上々で。美味しそうに食べる顔を見てると、

こっちまでお腹がすいてしまうから不思議です。

父のおにぎりには、まだまだ追いつけそうにもありません。

だからこれからも、父の隣でおにぎりをにぎっていたいです。

さて、次は、どの街を目指しましょう。

どんな人に会えるのでしょうか。

おにぎり屋の旅は、まだはじまったばかりです。

